

園だより

11月号

令和3年10月29日
新宿区立西戸山幼稚園
園長 佐藤 淳穂



どんぐりと運動会

園長 佐藤 淳穂

カーン、カーンと音がするので近づいてみました。どんぐりの木の下で3人の5歳児が砂遊び用のレンガコテでどんぐりの実をたたき割っていました。割れたどんぐりの実の皮を上手にはがし、中身を取り出すことを繰り返しているのです。バケツの中には山盛りのどんぐり。そこから一粒ずつどんぐりをつまんでたたき割り、お皿に並べます。お皿は皮がむけてアーモンドのようになったどんぐりでいっぱいになっていました。「ぼくはお父さんと食べてみたことあるよ。おいしくなかったけど。」とAくんが言いました。「へえー」と周りの子どもたちが驚いていました。

ひたすらにどんぐりを割り続ける様子は、職人のようでした。Aくんがたたく音とBくんがたたく音が互いに違いにリズムカルに響きます。力加減も絶妙です。この「おもしろい」とことん試すことができるかどうか幼稚園の腕の見せ所でしょう。

遊戯室からはラップの芯で作った手作りの拍子木の音が鳴り響いてきます。覗いてみると、別の5歳児の子どもたちが衣装の赤いはっぴを着て、運動会で踊るお祭りのダンスに夢中になっていました。教師はどこにもいません。自分たちで曲をかけて「もっと大きく回って!」「Cちゃん、こっちこっち」と踊っているのです。列になり丸くなり、力強く踏ん張り、拍子木を振り上げる姿にほれほれしました。掛け声を合わせたり、輪になったり…友達とのつながりが自信になっていることがわかります。

そして、運動会当日を迎えました。雨上がりの晴天に恵まれ、青空に一人一人の描いた旗がはためきました。職員が朝一番に行ったことは、園庭に落ちているどんぐり拾いでした。トラックのライン上にも容赦なくどんぐりの実が落ちているのです。一粒一粒拾いながら、子どもたちが精一杯取り組めるように祈っている担任の緊張感が伝わってきました。

感染対策として学年ごとの実施となり、保護者の皆様にはご理解とお協力をいただきました。日頃の姿を見ていただく運動会ですが、やはり本番は特別な日。子どもがぐんと伸びる節目の時です。それが目に見えてくるのは、実は運動会の翌日以降。今日も運動会が終わったというのに、年長組は誘い合ってリレーを楽しんでいました。走る順番やアンカーを交代しながら試し、チームも入れ替えて自由に取り組んでいます。行事での経験が自分たちのその後の蓄えになっていくのです。感動体験は生き生きした絵画の活動にもつながりました。自分たちで並べたコーナーコーンを周って走る姿、たすきをかけた応援団、空に自分で作った万国旗が描き込まれている作品もありました。絵を見ると、競技だけでなく自分が携わったあれこれが大事な体験だったのだと気付かされます。リレーの足元にどんぐりの実が描かれている絵もあって驚きました(全部拾ったのに)。

いちご組やさくら組は憧れのお兄さんお姉さんのリレーごっこに加わり、バトンを持ってちょっぴり背伸びをしています。ちなみに、今日はどんぐりの皮をおいているいちご組やさくら組も見かけました。こっちの遊びも伝承されています…。